

まちづくり懇談会議事録

日 時：令和 3 年 11 月 4 日（月）10：00～11：18

場 所：日出生活館

出席者：9 人

1. 開会

2. 町長挨拶

※配付資料確認および日程説明

3. 懇談

（1）第 7 次総合計画の策定について（別紙 1・2 参照）

（2）自由懇談

4. その他（情報提供）

（1）国民健康保険税・介護保険料・後期高齢者医療保険料の減免について（別紙 3 参照）

5. 閉会 町長挨拶

《懇談内容》

【自由懇談】

町長：熊の話ですが、本当に皆さん心配されているのではないかなと思いますけれど、今年度に入ってから栗山でも過去に例がないぐらいの目撃情報が寄せられたのです。9 件、そのうち 3 件が日出の地域ということで、大変心配されたのですけれど、猟友会と警察と関係機関で連携を取って、さらに移動しますから、夕張だとか長沼、近隣とも連携をとりながら対応させていただきました。この間、北海道で市町村長が集まる会議があって、その中でも全道的な問題になっているのです。北海道全体で見ると、うちは人身被害というのはないのだけれど、今年度は全部で 11 件、人身被害が人が襲われる被害があって、そのうち 3 人、死亡されている事例があり、30、40 年ぶりにそんな状況になっています。これはなかなか根本的に解決するという方法、方策がなくて、市町村長として北海道に対して、共通の要望をさせていただいたのですが、まずは、個体調整と言って、それをしばらくやっていなかったのです。昔、3、4 年前は春先に、動物愛護の問題とか色々あるのですが、あまり増えすぎないように捕獲して、そういうふうにして個体数を調整していたらしいのですけれど、それをやめたのです。それがあって、比較的に多くなっていきます。それで専門家の中でも熊が今、北海道に何頭いるのか分からないというぐらい増えていっているらしいので、まずその個体調整をしっかりやっていただきたいという要請をしたのです。先日、会議でさせていただいたところなのですが、それをやらない限りは、熊は 1 回降りてくると大変ですので、そして、人の被害とか、家、畑だとかそういうものが出ないと悪い個体でなければ、処分できないのです。基本的には何も被害を出さずにウロウロするだけだったら、山に返すというのが基本の考え方なのです。そういった中で非常に栗山

に限ったことではないですけど、その辺がちょっと心配されるということなので、しっかりと関係機関と連携して対応していきたいと思いますので、見かけたとか足跡があったとか、その場合はすぐ町の方に連絡いただければ、対応させていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

町民：非常に中山間は家と山との間はかなり距離があるのですけれども、日出第三地区で言いますと公道というか、町道と山が接近して、この辺でしたら熊を目撃しても、回避する方法が時間的に多少あるのですが、第三地区である程度上へ行くと道路と山が接近していて、目撃した時にはもう目の前という状況があります。それと今年新規に入った方から、まさか熊が出るという想定はしていなかったようで、前に住んでいた方からも聞いていませんでしたよと言われたので、今回、熊を見てしまって、今後不安ですという意見がありました。何か良い対策があれば、新規就農者の不安を解消する方法が何かあれば教えてください。

町民：今年9件出ているのですよね。栗山全町でその個体が、どちら方面からどちらに向かっているのかというのは、我々全然情報がないわけです。だから、角田で出ました。その個体があんなに人の多いところで出て、どこから来てどこへ行こうとしていたのかというような、この前の札幌ではないですけど、追跡でどこから来た個体なのかとか、どこへ向かっている個体なのかというのがわかれば、住民も危険回避ができる方法もあるかと思うのですけれども、日出だと神社のそばで見ました。小学校跡地のあたりで見ました。ただそれだけで、それもせいぜい1週間ぐらいです、看板置いているのが。そうなるとなかなか住民の人達も自分の畑のまわりだとか、その程度しか普段移動していませんから、後から情報を聞いても、そんなものが出たのという感じですから、できれば町の方でそういう追跡というか先程ハンターの人達にも出てもらっているということですから、もう少しどちらからどちらに向かっているものなのか、小学校のところといっても、どうも夕張川からこっちに向かって来ている、この裏山の方に向かってきている可能性が、でも伐採しているとすると熊は当然逃げます。伐採している重機の回りに来ませんから、そこら辺がわかれば極端なことを言うと、今みんな年なので山菜取りになかなか山に入りませんけれど、でもこの住民以外の人達が入ることもあるので。

町長：この間、新規就農の方のところに回ったのですけれども、やっぱり熊の話になったのです。本当に不安だという声を聞きました。その中で、なかなか生き物を特に野生を相手にするという事は非常に厄介というか難しい、やはりもしこれから見かけた場合については、すぐ通報していただきたいということと、あと町としても、パトロールだとかをしっかりやらしていただきたいという話をさせていただきました。その中で、今言われた通りどこから来てどこへ行っているのか、そういう流れというか、足取りみたいなのがはっきりわかれば、少し安心感というのが、あると思うのですけれども、なかなかそれが、足跡1つとってもどちらの方向を向いているかだとかそんなようなことからハンターの方が推測をされて、ある程度こうではないかというようなお話はいただくのです。日出の場合は、夕張山系から入ってまた、夕張に戻ったというのが実例だっていうことらしいのですけれども、ただはっきりしたことは言えないですけど、まあそうだろうということなので、それに基づいて、看板を設置する場所を考え、そのような対応をとらせていただいておりますので、今、言われた通り、やっぱり情報をきちんと地域の方にお知らせするということが1番大事だと思いますので、これからも町内会長さんとかと十分に連携とっていきま

すけれども、あと広報車とかを走らせていますけれども、これからはさらに、皆さんにそういった情報を発信していきたいと思っていますし、またなかなか難しいですけれども、対策も取っていききたいなと思っています。

町民：農業生産基盤整備の推進ということで、今、進めている基盤整備が何点かあるのですが、日出地区に関しても、かなり農業者の後継者がいなくて、更地になってるところとか、休耕地がかなりあるので、日出地区に関して要望とか、これからどうなるのか展望はあるのですか。農業法人でグラフィックファームさんがかなり力入れてやっていただいているのですけれども、日出地区の基盤整備の予定とか、何か情報ありましたら、よろしくお願いします。

町長：今、予定されているのは、ここに記載しているところで、これからやる令和5年度から令和12年度までの8年間は、7次総合計画の中では、この道営事業による日出地区の基盤整備については、挙がってはいないです。そのような中で、先程言った御園、富士、北学田、こういったところが過去に基盤整備が何十年も前に終わっているのですが、それからかなり経過しまして、排水から何から、かなり古くなったということと、あとは大型機械が入るようになったり、そういうような対応をするために、地区全体の基盤整備をし、圃場を拡大して大型機械による基盤整備の効率化を図っていくという整備をこれらの地区でやっていくのですけれども、この日出地区にはその計画は入っておりませんが、今、どのような状況になっているのか、他の地区からは、この基盤整備に入っていない地区の方からは私の方には、暗渠だとか老朽化してそういったところをやっていないとなかなか今年の干ばつみたいなことになる大変なのだというお話を聞かされています。そのかたちの排水整備等々について、この道営事業に載らなくても国の補助事業があるのですけど、70%ぐらいかな、だから30%ぐらいは、農業者の負担になってしまうのです。ですからこの道営事業に載ると10パーセントぐらいの負担です。ただ、これに載せるためにはある程度、農地面積がないと集積されず採択されないということもあるので、もし老朽化に伴って、農地整備等が必要ということであれば、産業振興課の方にご相談いただければと思っています。

町民：これからますます人口も減って町予算もだんだん減ることなので、今後、町長も大変だと思います。うちでも私が高齢者ということで来年どうしたら良いか田んぼをやめるか、野菜をやめるか、離農するか悩んでいるところでございます。それで、新規就農者が入って来てはいるのですけれども、今後、どうなっていくのかを聞きたいなと思って、日出に来てくれる人もいないかと思うのですけど、どうでしょうか。

町長：栗山町も、やっぱり今、ご心配されています町全体の農業対策ということで、10年以上前は、栗山町で700戸も農業者がいました。それが今現在430戸ぐらいまで、半減近い形で減ってきています。そういった中で、やはりこれからも農業振興計画、農業ルネッサンスの中の推計を見るとさらにその430戸から4割程度減っていくだろうというような見通しがたっているのです。そうなりますと経営面積、農地面積はしっかり守っていかなければならない。さっきおっしゃられた農地の更地、そういうものをなくしていかなくてはならないということで、そうすると経営規模面積というのが必然的に増えていくこととなります。ですから、10年前700戸ぐらい農家があった時の平均の経営面積が12、3haだったのですけれども、今は当然ですけど、倍ぐらい23haぐらいが今の栗山の農業者1戸当たりの平均の経営面積となっています。これからさらに離農だとか、そういうこと

で、農業者が減っていくとまた 1 戸当たりの経営面積というのが増えていくことになるのです。やはり今、何とか持ちこたえているというか、近隣の農家さんが経営規模を拡大しながら、何とか持ちこたえているような状況なのです。そんな中で、この日出地域の方にはやはり町としてもそういう状況の中で何とかこの新規就農対策、後継者対策をしっかりやらなければ駄目だということで平成 26 年、7 年前からいろんなフェアに行って、是非栗山で農業をやりませんかということで、いろんな相談に応じているのですが、それで 7 年間で、17 組、家族数にしたら 60 人ぐらいの方が、栗山町で今、農業をやられています。日出の方には先程申し上げましたけれど、4 件入って、路地とか、ハウスものとかそういった小規模経営、そういったものをやっただけということなのです。なかなか経営自体は非常に厳しいと思っておりますけれども、経営継承という離農された農家さんの農地も農機具も全部含めて、新しい方が入って継続していただくというのが理想的な形かなとは思いますが、なかなか新規で入る方も資金力、それだけの農地を購入したり、農機具を引き継いだり、そんなことをするというだけの資金力のある方がほとんどいないということなので、ハウスとかそういったところからスタートしていつているということなのです。その中で今、お話にあったこの日出地区の今後の新規就農を含めた展望というか、見込みということなのですが、今、ちょうどコロナでなかなか相談会もできなかったのですが、今やっと、東京の方とかに行き始めていますので、希望される方がいればいろんなところを紹介させていただいて、対応していきたいなと思っていますので、ここに誰が入るとかということは今、申し上げられませんが、やはり町としても農地をしっかり守っていくために新規就農者の受け入れ、そして、後継者の方への支援、こういったものをこれからしっかりやっていきたいなと思っています。14 組で家族数で 15、6 人、日出に入っています。地域の雰囲気も変わりますし、良いことかなと思っています。

町民：農家ではないので素人なのですが、栗山の団地にとうもろこしの加工場という加工場ができますよね。それはこの栗山地区だとか長沼地区だとかの農家の方達がとうもろこしをぎりぎりまで畑に置いておけるので、従来の農業の期間と別のところで収穫ができて加工できるというふうに、パンフレットを読んだのですが、そういうのであれば、日出に入った人達も結構遊んでいる土地があるわけです。とうもろこしだったらそんなに手間暇かけず、ただ機械はいるのかもわかりませんが、そういうところを町とうまく話し合っていくことができれば、就農した人達も、家族 2 人で行ったとしても、野菜の時期が終わった後にとうもろこしを収穫できるなら副収入としてある程度検討できるのではないかと思います。日出だって今、野菜以外はほとんど麦です。それだけだとやっぱりもったいないような気がして、確かとうもろこしの話を聞いた時に麦ととうもろこしを転作しないようにして繰り返しやっていけばということも書いてあったので、ただ麦だとかになると少し大型の機械が必要になるとかありますから、そういうのを貸し出しできるような方法とか考えてあげれば、もう少し農業もやりやすくなると思います。

町長：N-GRITS、江別製粉に工場を作っていたのですが、今、言われたとうもろこしを粉にしてお菓子の原料にしたり、トルティーヤという料理に使ったり、そのようなことができる加工場を作っていたのです。今、言われたとおり、その後の新聞報道にもありましたけれども、農協さんの方である程度取りまとめをして、個別の江別製粉と

のやり取りはないと思うのですけれども、農協を通じて、供給体制をしっかりとしていくということになっていますので、これから、私共が期待するのは、初めてだと思うのです。栗山の農業生産物と工業団地の工場が一体的に地域振興のためにやっていくケースというのは、今までかつてなかったのではないかと、サラサラレッドとかスマイルボールはありますけれども、それ以外は、農業は農業で工業は工業という形だったのですけれども、この N-GRITS の関係については、本当に栗山の基幹産業の農業から生まれる生産物と工場とこれがマッチして一体化して、これから事業展開されていくということなので、本当に私も期待しているところでありますので、今、言われたようなところも確認したいと思いますが、今まで農協さんが部会を作ってやってきたところを N-GRITS に経営譲渡したというところもあります。その辺を確認しながら、やっぱりある程度、量がいると思うのです。ですからなるべくそれを確保して、農協と連携しながらやっていきたいと思っています。やっぱり品質が全然違うみたいです。今までは江別製粉もそうだったのですけれども、外国から入れてやっていたみたいなのだけれど、日本のとうもろこしはそれと比較してもかなり品質も良いということもあるので。

町民：お菓子業界も相当期待しているみたいです。

町長：そうです。ここから、栗山から発信されて、それが規模拡大されていけば、1 番良いですね。今までとうもろこしといえば、製品として出している部分はあったでしょうけれど、さっき言われた転作方法とかも、すきこんでいくような役割を果たしてきたという作物でもありますけれども、これからはもっと、それだけではなくて、もう少し活かせるような期待できる事業になると思います。

町民：栗高の女子野球という話は具体性あるのですか。

教育長：着任して 1 カ月なのですが、10 月に入ってすぐ、高校の方ともう一度振り返りも含めて話をさせていただく中で、道の方と調整もさせていただいているところです。また、野球の様々な連盟がありますが、その連盟とも急ピッチに話を進めています。全国それから中学校もそうですが、1 つの部を作るにあたって、最初から 10 人とか 20 人とか、なかなか人数を最初から揃えてスタートできるというのは例がないものですから、我々もそういう夢物語ではなくて、一步でも 1 人でも 2 人でも 3 人でも、という中で、だんだん 9 人、それが 15 人、20 人と、もし増えればという形の中で、今、現実的なところで話を詰めさせていただいているところです、ですから、町の方としても、地方から来られる方が、もしいたらということで介護学校の寮も内装の関係をしっかりと改善したというふうに話は聞いていますし、受け入れる準備は着々と進んでいるところです。後はその地元の子ども達、それから全道、全国になるかもしれませんが、子ども達が栗山に目を向けてくれるように、今、青年会議所や商工の方々、それから我々教育委員会、まちを上げてという形で進めていると思います。今、ちょうど中学校 3 年生が最終の面談をそれぞれの学校で行っている段階、これから高校生がどこの高校に行きますよという情報が入ってくる段階ですので、それを見据えた中で、取り組みについては具体的にしていかなければならないかなと考えているところです。いずれにしても、今、走り出している事業ですので、後下がりではできませんので前を向いて進めているところです。

町長：地元の高校を残すために今、教育長が色々話しましたが、女子硬式野球部を作ることが一義的な目的ではなくて栗山高校を存続していくために栗山高校を魅力ある高校にしていく、そして、さらに今年 40 人しか生徒が集まらなくて、本来は 1 クラス

なのですけれど、要望を陳情させていただいて2間口、2クラスということで、来年も2間口で募集できるようになった。まずそこをきちんと栗高を魅力ある学校にしていこうというところを第一義的に考えていますし、そのためには2間口を維持していく必要があるというふうに思っていますので、その対策の1つとして、硬式野球部があるという抑え方をさせていただければと思います。来年は3月、中学校はだいたい今、栗中からの卒業生が80人か90人なのですけれど、15、6年前、子どもたちが少なかったのです。栗中の卒業生が60人しかいないのです。30人ぐらい少なくなる年があるのです。だから、ここからまた踏ん張って、頑張っておかないと、また間口を減らされるだとかいろんな問題が出てきますので、そのためにしっかり対応していきたいなと思っています。あと、情報提供ということで、まだ正式決定ではないのですけれども、日出、継立という中でのお話をさせていただきますけれど、懸案となっていた継立中学校跡地の活用ということで業者が大阪の企業なのですけれど、ある程度決まりまして、あとこれから地域の説明会だとか議会の手続きがいろいろありますので、うまくいけば、来年の4月に仮オープン、7月ぐらいから本格オープンできるのではないかなということで進めておりますので、また改めていろんな情報を町広報とかで、正式に決まればお知らせしていきたいと、職種としてはグラウンドを使ったキャンプ施設だとか、校舎を活用してのシェアオフィスだとか、いろんなものを今の時代にあった計画書として上がってきていますので、これからしっかり準備して正式決定に持っていきたいなと思っています。また、いつもここに来ますと要望をされている案件でこの生活館、改修改築工事ということで、一応計画としては来年、令和4年にやるということではなく、地域の方ときちんと話し合いをさせていただいて、どのぐらいの時期に、場所がどこに、どのぐらいの規模のものだとか、しっかりその辺を相談させていただいた中で、第7次総合計画の期間、この8年間の中のどの辺に改修工事をやるか、それはまた地域と相談させていただきながら、対応させていただきたい。とりあえず来年はいろんな地域の皆さんとまず話し合いをさせていただく期間というふうに位置付けておりますので、よろしくお願いしたいと思います。ちょうどここが山がありますから、危険な区域にも入っていますので、今、大雨だとかで、本当に我々予想できないような甚大な被害が出ますので、この場所もそんなに安全な場所ではないというふうな認識も私共していますので、そこを踏まえて、またいろいろご相談させていただきたいと思っています。

11：18 終了